

2020.3.13
発行

No.
44

まひかの保育



発行者/愛媛県保育協議会
会長/合田 史宣
作成者/総務広報部会
編集責任者/阿部 直子

発行所/愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内

はるよこ〜い



もうすぐいちねんせい!



小松
保育所
(鬼北町)

こしもよろしく



やきいもだよ〜



「可能性を育てる保育」

愛媛県保育協議会 会長 合田 史宣



今年の冬は暖冬でしたが、春が来るとやはり嬉しいものです。卒園を控えた子ども達が、園庭を駆け回るのを見たと嬉しい反面、さみしい気もします。

この時期いつも思うのは、卒園していく子ども達の育ちを保証したのだろうかという事です。「子どもの育ち」ですから、今日、明日に見えて表れるものではありません。人生の中で何度めぐり抜けなくてはいけない行き先の選び取りの場面で、力を発揮できるかが、結局は「子どもの育ち」なのだろうと思います。

私たちは保育の中で、子ども達に何者かになることは求めていません。何にでもなれる可能性を育てているのだと思います。

人生の長い道のりを、みんなの力を借りながら、自分の力で進んでいく力を身につけることが、私たちにとって「子どもの最善の利益」を保証したものだといえるのだと思います。



令和元年度の私たちの取り組み

前号でご紹介できなかった研修会の内容や参加された方々の感想をご紹介します。

保育士等キャリアアップ研修②「幼児教育」

8月6日(火)～7日(水) アイテムえひめ

- 講義Ⅰ「幼児教育の意義と保育者の関わり」
 - 講義Ⅱ「幼児教育の意義と保育者の関わりⅡ」
 - 講義Ⅲ「幼児教育の意義と保育者の関わりⅢ」
 - 講義Ⅳ「これからの保育実践に求められること」
— 子どもの発達理解と子どもの目標の保育 —
 - 講義Ⅴ「これからの保育実践に求められること」
— 子どもの発達理解と子どもの目標の保育 —
 - 講義Ⅵ「これからの保育実践に求められること」
— 子どもの発達理解と子どもの目標の保育 —
- 松山東雲短期大学 保育科 講師 岡田 恵氏
松山東雲短期大学 保育科 特任教授 児嶋 雅典氏

キャリアアップ研修②「幼児教育」を受講して

(鬼北町)みどり保育所 堀 亜哉

今回の研修で、幼児教育とは生涯にわたる生きる力の基礎を培うものであり、義務教育である小学校につながる幼児教育の役割であることを改めて学ぶことができました。

研修を受講し自身の保育を振り返り、「教えて育てる」という意識が強かったことを反省し、「教える教育」ではなく、「子どもの持っている良さや可能性を引き出す教育」を心がけたいと思いました。そのためにも、子どもの様子を観察し、「子どもはどのようなことをしたいのか」「何を求めているのか」等、一人ひとりの主体性や意図を理解し、子どもの個別の学びに応えられるようにしていきたいと思っています。

2018年に保育所保育指針や幼稚園教育要領が改定されましたが、子どもの理解や保育実践が一般の人には理解されておらず、保育の大切さが伝わっていないことが問題です。子どもの発達には個性で発達速度は異なるにしても共通した発達の道筋をたどっていくことで、子どもの発達過程を把握できていないと子どもに無理なことを要求することになるという点に気付かされました。発達を踏まえた保育の意図や個々の発達についての理解を保護者や小学校等へ伝えられるよう、ポートフォリオやドキュメンテーションを用いて公表する等、会話を高めていきたいと思っています。

保育士等キャリアアップ研修③「障がい児保育」

8月22日(木)～23日(金) アイテムえひめ

- 講義Ⅰ「障がいをもつ小児の発達と対応について」
愛媛県発達障がい者支援センター あいゆうセンター長 若本 裕之氏
 - 講義Ⅱ「新保育所保育指針がめざす資質・能力の基礎を育成するために配慮が必要な子どもの保育と連携」
愛媛大学 教育学部 特別支援教育講座 教授 吉松 靖文氏
 - 発表・グループ討議「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」
助言者 愛媛大学 教育学部 特別支援教育講座 教授 吉松 靖文氏
発表者 (東温市)双葉保育所 保育士 武本真未子
(松山市)山越保育園 保育士 吉本 香織
 - 講義Ⅲ「特性のある子どもの理解と支援」
児童発達支援センター あゆみ学園 児童発達支援管理責任者 今村 高博氏
 - 講義Ⅳ「基礎編 遊びの可能性を知る」
子どもとしての遊びには意味がある」
子どもとしての遊びの有効活用
 - 講義Ⅴ「実践編 遊びの有効活用」
子どもとしての遊びの有効活用
- 愛媛十全医療学院 作業療法学科 学科長 三澤 一登氏

キャリアアップ研修③「障がい児保育」を受講して

(西予市)宇和保育園 駿河 友希

人間のコミュニケーションとして、言葉でのコミュニケーションは1割で、後の9割は非言語コミュニケーションであるということを知り、驚きました。発達障がいの子どもは①フラッシュバック②感覚過敏③見通しが立たない④いろいろなことが混乱の原因になっていることが多く、その点の事柄から支援の仕方を探すということが勉強になりました。

接する時の基本姿勢として、「話しかける時はゆっくり・わかりやすく・簡潔に」「抽象的表現は使わず、なるべく具体的に伝える」「せかさな」「非言語コミュニケーションの工夫をする」などのことを学びました。

また、「見通しと方法を掲示すれば失敗はなくなる」ということや「見通しをもって再チャレンジする際、責任は支援者にあり子どもにあるのではないことを伝える」「ごめんね」と支援者が素直に謝ることが大切である、ということを知ることができました。別の



お話の中で「不器用な子は自分のサイズに合っていないものを選びがち」ということも知り、「手の平サイズというものは目安になる」と学び、大変勉強になりました。

今回の研修を通し、支援する際「状況を見極めて、目的をもって関わる事が大切である」ということを再確認しました。また、「できない見極めが重要」とのことです。①：できることはしたりしなかったりする。②：できないことは時と場所が変わってもできない。③：①②を見極めてサポートしていくことが重要」という見極めのポイントを教えて頂きました。今回の研修で学んだことを活かしながら、よりよい保育をしていくように努めていきたいと思っています。

保育士等キャリアアップ研修④「食育・アレルギー対応」

9月10日(火)～11日(水) アイテムえひめ

- 講義Ⅰ「食物アレルギーとアナフィラキシー対応」
愛媛大学 医学部 小児医学教室 准教授 楠目 和代氏
- 講義Ⅱ「子どもたちの可能性を広げる食育」
スポーツ・ニュートリションM 代表 管理栄養士 公認スポーツ栄養士 大田 美香氏
- 発表・グループ討議「『食を管む力』の基礎を培う食育の推進」
助言者 スポーツ・ニュートリションM 代表 管理栄養士 公認スポーツ栄養士 大田 美香氏
発表者 松山市(石井保育園) 主任 梅木 郁子
(天洲市)大洲乳児保育所 専門員 井上 教子
- 講義Ⅲ「保育所における食物アレルギー対応の実践」
別府大学 食物栄養科学部 食物栄養科学科 教授 高松 伸枝氏
- 講義Ⅳ「保育所における食物アレルギー対応食の提供」
愛媛生協病院 薬剤師 小児アレルギーエデュケーター 立川 登美子氏
- 講義Ⅴ「食物アレルギー予防のためのスキンケアと薬の基礎知識」

保育士等キャリアアップ研修④「食育・アレルギー対応」を受講して

(四国中央市)東保育園 堀 由香里

今回受講した「食育・アレルギー対応」の研修は、今年度エビパンを預かっている子どもを担任している私にとって学ぶことの多い研修となりました。

アレルギー疾患とは食物アレルギーの他、タンパク質、花粉などに反応することであり、原因として食物内容の変化、大気汚染、スプレー、コンクリートの場所が増え花粉が舞いやすくなる、人間が除菌をしすぎた衛生飯説もあると聞いて、改めて現在の子どものた

ちの周りの状況の厳しさを知り、危機意識を持ちながら保育していく必要性を感じました。

食物アレルギー対応食では、食物の除去、安全面での配慮を含め、たうえて、食中毒予防のためのポイントを学びました。食中毒予防とアレルギー食への食事の提供の大変さを理解したことで、保育室と給食室、園全体が協力していくことが大切だと感じました。

保育はとても重要であり、食に関心を持つことが心と身体の育ちにもつながっていると感じました。特に和食は、バランスの良い食事だと勧められました。子どもたちが楽しく食べることが、果物や野菜に興味を持てるように働きかけをしていくことが大切だと思えます。また、子どもたちへの食育と共に、保護者へ働きかけの重要性を感じています。家庭環境や保護者の思いを聞きながら、保育室、給食室、保護者と協力し合い、子どもより良い育ちを見守っていきたいと思います。今回の研修を通して、学んだことを今後の保育に活かしていきたいと思っています。

保育士等キャリアアップ研修「⑤保健衛生・安全対策」

10月1日(火)～2日(水) アイテムスひめ

- 講義Ⅰ「よくみる小児の感染症」「小児の予防接種」
愛媛大学医学部附属病院 感染制御部 准教授 田内 久道氏
- 講義Ⅱ「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」
2019年書改訂版における食物アレルギー緊急対応について
- 講義Ⅲ「保育所における感染症対策」
大阪健康福祉短期大学 学長 眞鍋 穰氏
- 講義Ⅳ「保健計画の作成と活用」
- 講義Ⅴ「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」
事故発生時の対応のためのガイドライン
- 講義Ⅵ「事故防止及び安全対策」

一般社団法人 全国保育園保健師看護師連絡会
会長 藤井 祐子氏

保育士等キャリアアップ研修「⑤保健衛生・安全対策」を受講して

保健衛生・安全対策の研修会に参加して、感染症やアレルギー、安全対策について深く学ぶ事ができたと共に、考える事ができました。小児の感染症について保育現場では耳にする事が多い感染症から起こる合併症を知り、合併症を引き起こさないためにも早期発見や早期対応に努めていく事や、予防接種で防げる病気もあるために接種を進めていく事が大切である事を感じました。また、アレルギーの対応として、誤食を起ささないために職員間

で連携を取り、食事の提供を行う事や、食物アレルギーには様々な症状が見られるために、症状に対する対応や配慮についても再認識することができました。

安全対策や事故防止では、実際に起こった事例を通して安全面に対する配慮をより一層大切にすると共に、様々な事を想定して安全点検を行いながら日々の保育をしていきたいと感じました。その中で子どもに起こるべき対応や、処置について細かく教えて頂き、チェックポイントや状況に応じた対応を十分把握して、速やかに手当を行っていきたいと思います。子どもたちの命を預かる仕事であるという事を常に忘れず、子どもたちが安全で健康に過ごせるように保育を行っていききたいと思っています。



保育士等キャリアアップ研修「⑥保護者支援・子育て支援」

11月25日(月)～26日(火) アイテムスひめ

- 講義Ⅰ「保育所の特性と保育士等の専門性を活かした保護者支援・子育て支援の基本と役割」
保護者に対する相談援助の方法・技術・展開
松山東雲短期大学 保育科 准教授 友川 礼氏
- 発表グループ討議「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」
助言者 松山東雲短期大学 保育科 准教授 友川 礼氏
新居浜市 新居浜保育園 主任保育士 山内 由紀
今治市 城東保育所 主任保育士 眞鍋 美穂
- 講義Ⅲ「児童虐待への理解と保育所等における児童への支援」
- 講義Ⅳ「保育所等における関係機関・専門職との連携における役割と相談援助の方法と技術」
- 講義Ⅴ「保育所の特性と保育士等の専門性を活かした地域の子育て家庭への支援と子育てに関わる社会資源の活用方法」
松山東雲短期大学 保育科 准教授 友川 礼氏

松山東雲短期大学 保育科 准教授 友川 礼氏

保育士等キャリアアップ研修「⑥保護者支援・子育て支援」を受講して

2日間にわたり「⑥保護者支援・子育て支援」を受講し、子育て支援の理念として「子どもの最善の利益のために」という考えのもと、講義や具体的な事例での演習や実践報告から、子ども園や保育教諭ができることは何なのかを学ぶことができました。相談援助の基本姿勢(バイステックの7原則)や受援力についての講義は、専門的で相談支援の方法・技術・展開を知ることができ

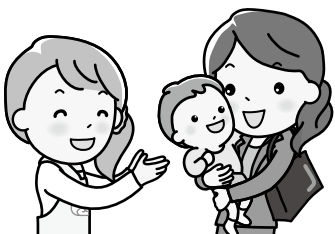
ました。ソリューションやリフレージングを活用できるようになりたいと思うなど大変勉強になりました。

子ども園の特性を活かした虐待支援の仕組みの中で、保育教諭は子育てのパートナーであるという思いで保護者と接し、毎日子どもや保護者と顔を合わせ関わっているからこそ感じる「ちょっと気になるけど…」という気付きや、役割は大きいと感じました。もしも支援が必要な事例が起こった場合、自園のEコマップ(複雑な問題を抱えた利用者の家族との関わりや、社会資源との関わりを線や記号を用いて表現したものを)を活用していきけるようになるためにも、自園を取り巻く専門機関や関係者などの見直しをしていきたいと思います。それを見直しをしていきたいと思います。また、子どもや保護者から見れば、保育教諭も子ども園も社会資源の一つであるという意識をもつて関わっていきたいです。

保護者支援のみならず、思春期から親になるための支援を始めるため「命の授業」となる、小・中学校の職場体験などに積極的に取り組んでいきたいです。

新居浜保育園と城東保育所2園の実践報告からは、「日々の保育の全てが支援である」「子どもがまん中」という日々の保育のヒントをいただきました。特に、城東保育所の発表にあった、自分の保育を意図的に振り返り、日々の丁寧な保育を心掛けていけるような保育教諭になつていきたいと思っています。

子ども園ならではの楽しさをベースにした活動を多く取り入れていき、家庭でできにくい経験ができる、子どもたちのかわいい元気な笑顔がますます輝くことも園になるようにしていきたいです。



四国ブロック保育士会リーダーセミナー

12月16日(月) 愛媛県総合社会福祉会館
講演「園長の仕事術」保育のリーダーとしての資質を問う」
子ども主体の目線の中で

講師 玉川大学 教育学部 准教授
学校法人 田澤学園 東一の江幼稚園
園長 田澤 里喜氏

＜受講者の声より抜粋＞

●田澤先生の著書「保育の変革期を乗り切る園長の仕事術」を読ませて頂き、直接話を聴ける事を楽しみにしていた。実践事例を中心に楽しく、興味深く参加する事ができた。

●子ども一人ひとりを大切にする保育・事例をみながら、本当に子ども達の声が聴こえてくるような楽しい保育・遊びを見せて頂き、これからの保育所での生活遊びを振り返っていきたく思います。

●「子どもが主体」という事がわかっていてもそれを保育に取り入れる時間がない事が悲しい。いろいろな行事を皆で考え、子どもが一番である事を考えたい。

教育・保育施設長研修会

12月17日(火) 愛媛県総合社会福祉会館

○講義Ⅰ「発達の子でわかる0-2歳児の遊びと保育」
社会福祉法人・久良岐母子福祉会
くろき永田保育園 園長 鈴木 八朗氏

○講義Ⅱ「保育現場における職員間のコミュニケーション」
一般社団法人ホスピタリティ機構
理事長 野口 幸一氏

〈受講者の声より抜粋〉

●学ぶことの多い研修だった。子どものサインを見逃さないように、しっかりと子ども思いに寄り添った取り組みを行っていきたくと思った。

●学びと養護について丁寧に話をうかがうことができた。特に、保育士への環境づくりへの働きかけについて背中を押していただいた。自信を持って園をチームとしての主体性を大切にした環境づくりや保育に取り組みたい。

●自己決定できる保育士の見守り、適切な援助について職場でも伝えたいことを思った。



●「保育の見守り12ヶ条」について参考になった。

●講義Ⅰで実際に使用したパワーポイント資料がほしい。レジュメと違う内容で、メモを取るのが追いつかなかった。事前に写真撮影を行ってもかまわないようにしてほしいかった。



保育士等キャリアアップ研修⑦「マネジメント研修」

1月28日(火)～29日(水) アイテムえひめ

○講義Ⅰ「保育マネジメントの理解」

○講義Ⅱ「組織・目標の設定と実行」
鶴見大学 短期大学部 保育科 教授 天野 珠路氏

○講義Ⅲ「保育における人材育成」

○講義Ⅳ「リーダーシップ」
保育「コミュニケーション協会」 代表 松原 美里氏

○講義Ⅴ「働きやすい環境づくり」
umehana Relations 代表 松原 美里氏
助言者 保育「コミュニケーション協会」 代表 umehana Relations 代表 松原 美里氏
発表者 (四国中央市) 土居保育園 副園長 佐藤 千春
(北宇和郡) 虹の森まつの保育園 主任保育士 岡 恵美

保育士等キャリアアップ研修⑧「マネジメント研修」を受講して

「保育者は育ち、学び続ける存在であり、学ぶこと刺激をうけることの面白さが保育者の成長に繋がる」という言葉がとても印象に残りました。

そして子どもの最善の利益を考え、子ども一人ひとりが輝ける場を作ると共に「園らしさ」を見いだし、保育士一人ひとりが成長していくことが保育マネジメントに繋がることが学びました。その一つとして指導計画があり、計画は見直しを持って作成し実践したこと、振り返り反省する、その保育者の努力が子ども達の姿に現れマネジメントにも繋がることを教わり、自分の保育を振り返る機会にもなりました。

職場においては個々の長所を生かし短所をカバーしあい、それぞれの個性、価値観の違いを尊重し合えることは、保育の豊かさを増すことができることを知りました。そのためには保育士同士の関係が大切であり、研修で教わったあいづち・うなずき・笑顔・相手のペースを受け入れる「ペーシング」を取り入れ信頼関係の土台となる「コミュニケーション」を十分に取っていきたくと思えました。

これからはミドルリーダーとしての役割を意識し、色々な所にアンテナを張り学び続け、それを保育に生かし、保育の質を向上できるようにしていきたいと思えます。



保育士等キャリアアップ研修⑨「保育実践研修」

2月12日(水)～13日(木) アイテムえひめ

○講義Ⅰ「生物学的見地からみた自然教育の重要性」

○講義Ⅱ「遊びが充実する保育環境のあり方」
松山東雲女子大学 人文科学部 心理学士も学科 准教授 出原 大氏

○発表・グループ討議
「新たな時代の保育実践へすべての子どもにむけて」
助言者 松山東雲女子大学 人文科学部 心理学士も学科 准教授 出原 大氏
発表者 (西予市) しろかわ保育園 主任保育士 増田 聡子
(伊予市) ときのき保育所 保育士 上垣恵美子

○講義Ⅲ「新しい時代の保育内容表現と劇あそび」
一人ひとりの子どもの嬉しい姿から発表会へ①
身体を使った遊びを發展させる

○講義Ⅳ「新しい時代の保育内容表現と劇あそび」
一人ひとりの子どもの嬉しい姿から発表会へ②
ものを使った遊びを發展させる

○講義Ⅴ「運動大好き」子を育てよう。
青山学院女子短期大学 子ども学科 助教 直井 玲子氏
日常保育から行事に活かせる幼児向け運動あそび
日本遊育研究所 専任講師 藤原 明美氏

保育士等キャリアアップ研修⑩「保育実践研修」を受講して

宇和島市たちばな保育園 那須 徳子

今回受講した「保育実践」は、「保育とは？」とこれまでの自分の保育を振り返るきっかけとなる研修でした。

講義では、子どもたちは、自然環境が豊かな空間に入ると、自ら体を動かし心を安定させること。特に3～5歳の頃は人生で一番心の動く時期で、五感を通して様々な感覚を体験することが大切であること。自然の変化を感じ、自然と遊び、心が動かされ、これが、自然に対する興味・関心につながり、豊かな感性が育まれていくこと等を学びました。

子どもたちが自然環境に触れることで育つ偉大なものを感じ、自然の中で遊ぶことが少なくなった今の子どもたちに、私たち大人は少しでも自然に触れて遊べるように工夫し、大人も心を動かし自然に目を向け、共に遊ぶことが必要だと思いました。自然豊かな自園においても、自然と触れ合うあそびがいかに少なかったかと気付かされ、反省しました。

2日目は、「新しい時代の保育内容表現」として、劇あそびでも既成のお話を与えるのではなく、日頃子どもが楽しんでいるあそびの中から、話を發展させていったり、子どもが「やりたいた」と思うことを劇にしたり、子ども主体の新しい劇あそびの形を知りました。

運動あそびでは、子どもの発達に応じた手遊びや運動あそびを、参加者全員で楽しみながら学ぶことができました。

2日間の研修で学び感じた事を、園の職員に伝えていき、これからの日々の保育に役立てていきたいと思えます。

「保育施設職員のデスクワーク」

【調査目的】

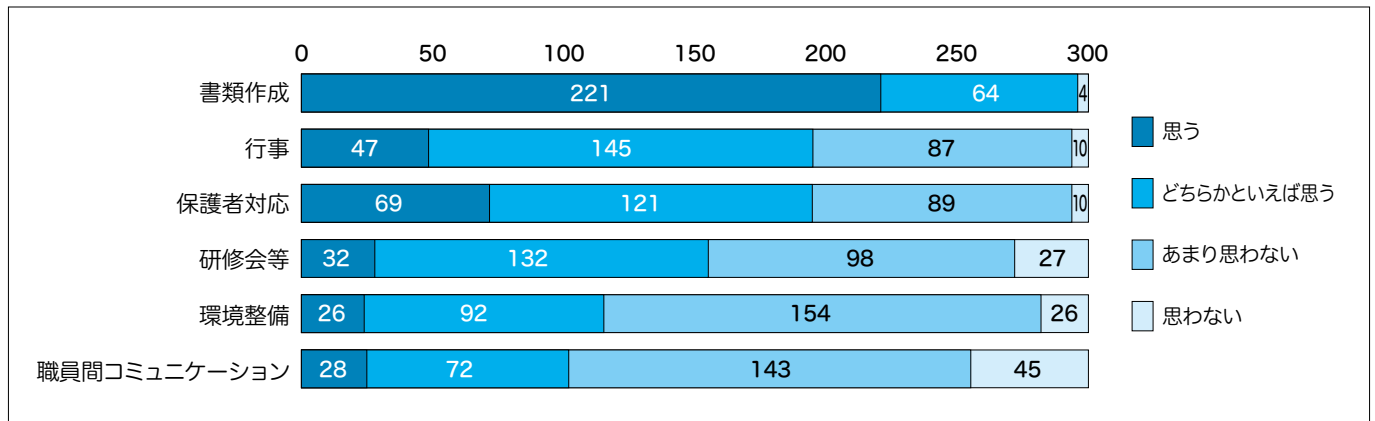
本会調査研究部会では、会員相互の情報共有を図ることを目的として、保育実態調査を実施しており、今年度は「保育施設職員のデスクワーク」をテーマに設定し、調査を行った。

1 調査対象&サンプル数

愛媛県保育協議会 会員施設 298か所(有効回答数:289)

区分	公立	公設民営	私立	合計
集計数	162	17	110	289

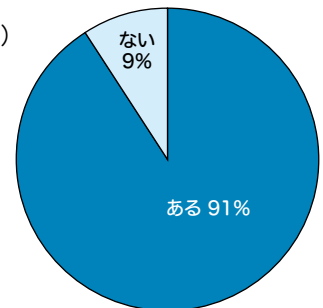
2 保育業務の中で負担と感じるのはどのようなことですか



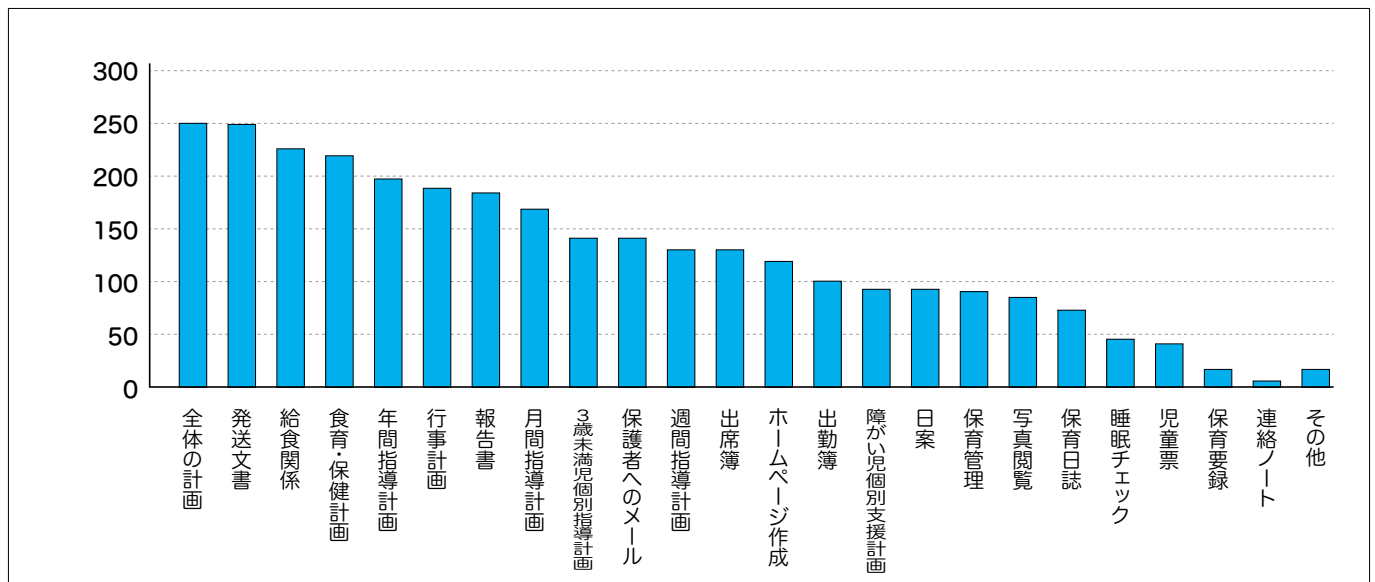
3 保育士等が使用できるパソコン・タブレット等のICT機器はありますか(有効回答数:289)

4 機器1台あたりの使用人数を教えてください

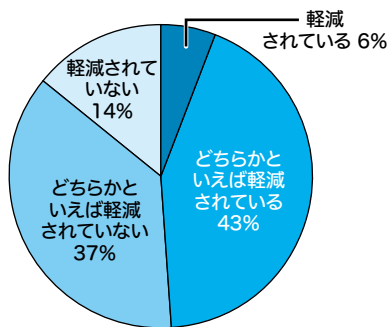
平均 3.7人



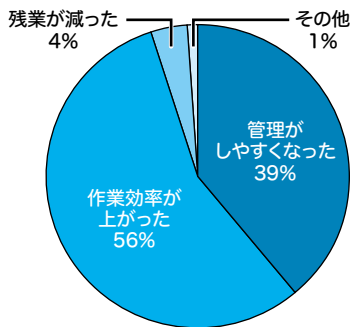
5 貴施設での機器使用内容について、当てはまるものに○を付けてください(複数回答可)



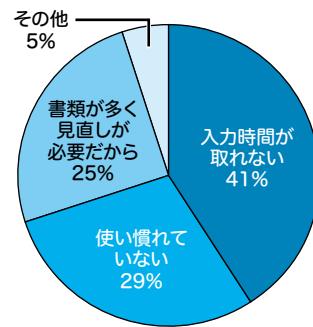
6 機器の導入によって業務は軽減されていると思いますか(有効回答数:259)



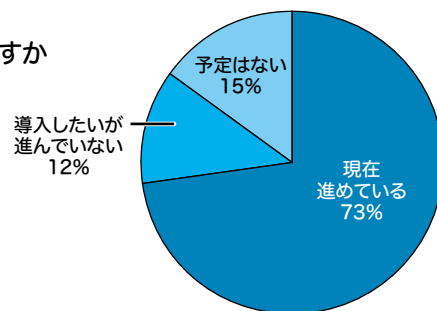
7 軽減されていると感じるのは(複数回答可)



8 なぜ軽減されないと感じますか(複数回答可)



9 貴施設でパソコン・タブレット等のICT機器を取り入れていく予定はありますか(有効回答数:26)



10 今後、貴施設で業務軽減のためにICT機器を使い、取り組みたいことは何ですか(自由記述)

項目	回答数
園児の出席、登降園時間の管理	67
指導計画(年、月、週案等)や児童票等の書類作成	54
睡眠時チェック(SIDSチェック)	28
保護者への連絡(連絡帳、緊急連絡、お知らせ、一斉メール送信)	21
職員の出勤管理、勤務表作成、労務管理	14
延長保育・一時保育の出席管理及び料金計算	12
園児の体調管理	5
給食費計算	3
投薬管理	2

【まとめ ～アンケートの結果から～】

保育業務の中で事務処理等のデスクワークが、大きな負担となっていることが浮き彫りになる結果となった。

台数に差はあるものの、9割以上の施設で保育士が使えるパソコンやタブレット等ICT機器を保有しており、ICT化が進んでいる施設が多く、園全体の計画や指導計画、給食関係の書類等の作成に活用されている。

保育士が使えるICT機器がないと回答した施設でも、ICT機器がデスクワークの軽減になると回答しており、今後、さらに導入が進むと思われる。

しかし、ICT機器を保有している施設の中で、機器の導入によって業務が軽減されたと感じているのは、約半数であった。管理や作業の効率はよくなったと感じていても、入力時間が取れないことや使い慣れていない、さらには、書類の多さ等からICT機器を導入しても業務が軽減されたと実感しづらいのではないと思われる。

ICT機器は、使い慣れないと負担に感じ、苦手意識を持ってしまう傾向がある。今後、ICT化はますます進むと思われるが、使いやすいソフトウェアを利用する等、使いやすい環境を整えることが重要である。そして、職員一人ひとりが、ICT機器に慣れ、使いこなすことができるように、職員間の意識統一や情報の共有を行うことで、ICT機器を十分に活用した業務軽減、ひいては日々の保育の質の向上につながると思われる。(調査研究部会)

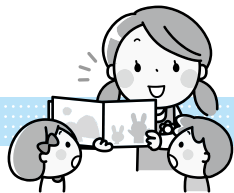
※紙面の都合上、割愛している部分についてはホームページに掲載しています。

令和2年度 研修等日程のお知らせ

No.	名 称	期 日	会 場
1	教育・保育施設初級職員研修会	5/26(火)～27(水)	愛媛県総合社会福祉会館
2	保育関係者交流セミナー	6/27(土)	松山市総合コミュニティセンター
3	保育士等キャリアアップ専門分野別研修「①乳児保育」	7/1(水)～2(木)	愛媛県民文化会館
4	四国ブロック保育研究大会(徳島県)	7/7(火)～8(水)	徳島グランヴィリオホテル
5	第65回愛媛県保育事業研修大会	8/5(水)	松山市民会館
6	保育士等キャリアアップ研修専門分野別研修「②幼児保育」	8/19(水)～20(木)	愛媛県民文化会館
7	保育士等キャリアアップ研修専門分野別研修「③障がい児保育」	9/10(木)～11(金)	
8	保育士等キャリアアップ研修専門分野別研修「④食育・アレルギー対応」	9/24(木)～25(金)	
9	保育士等キャリアアップ研修専門分野別研修「⑤保健衛生・安全対策」	10/6(火)～7(水)	
10	保育士等キャリアアップ研修専門分野別研修「⑥保護者支援・子育て支援」	11/24(火)～25(水)	
11	四国ブロック保育士会リーダーセミナー(香川県)	12月	
12	教育・保育施設長研修会	12/14(月)	愛媛県総合社会福祉会館
13	保育士等キャリアアップ研修「⑦マネジメント研修」	1/19(火)～20(水)	愛媛県民文化会館
14	保育士等キャリアアップ研修「⑧保育実践研修」	2/9(火)～10(水)	アイテムえひめ
15	四国ブロック保育組織次世代リーダー研修会(徳島県)	2月	

※上記の期日・会場等は、変更する場合があります。

◎本会「ホームページ」で随時、情報発信を行っておりますので、ご確認ください。



おすすめの絵本



ともだちや



【作】内田 麟太郎
【絵】降矢 なな
【出版社】偕成社

きつねがともだちやを始めるのですが、おおかみとのやりとりから、本当に大切なことを知り、森一番のさびしんぼうのきつねがともだちをつくることのできるお話です。画面いっぱいのおおかみの表情と、きつねが気付いた時の表情が印象的です。

おいしいのぼうけん



【作】ふるた たるひ たばた せいいち
【出版社】童心社

ドキドキのファンタジー。おもちゃのとりあいでケンカして、保育園の押し入れに閉じ込められてしまいます。閉じ込められた2人は冒険の旅へ…。ページをめくると、ハラハラドキドキ…どんなことがおこるのかな？

レモンちゃん



【作】さとう めぐみ
【出版社】PHP研究所

レモンちゃんは、いっしょにあそぶお友だちをさがしに、おいしいもりを歩きます。そこで出会った野菜や果物たちに、「なかにいーれーてー！」と声をかけるのですが、なかなか仲間に入れてもらえず、「おまえは“やくみ”だよ！」と言われてしまいます…。描かれた野菜や果物が、みずみずしくておいしそうで、その面白い表情に引き込まれていきます。

『もっと知りたい!きくまきち。どんなところ?』

～菊間国家石油備蓄基地の見学を通して～

今治市 菊間保育所 所長 藤本 久美子

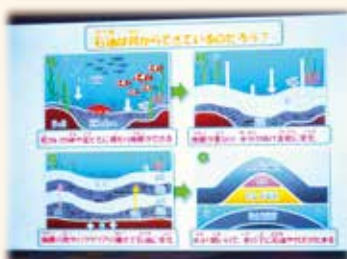


今回、菊間・亀岡保育所合同で菊間基地(1994年3月完成)を見学するにあたり、私には感慨深いものがありました。当時は愛媛県越智郡菊間町(現今治市菊間町)「こんな田舎に国の直轄事業ができるなんて!」「何かあったらどうするん…。」そんな不安な声もチラホラ聞こえる中、私たち町民はまだ工事途中のトンネルの中をバスに分乗して見学させてもらったのです。現在その時の入り口は重い扉で塞がれていましたが、あの中を思い浮かべ懐かしい感じがしました。

①到着後、事務所でまず「見学中のお願い」として、地震が発生した場合と火災が発生した場合それぞれの一時避難について、誘導・避難場所などの説明がありました。基地職員のみならず、全然知らない場所を訪問する際に起こりえる危険に対して、子どもの身の安全を守る立場にある保育士も協力し、臨機応変な対応が瞬時に判断して行えるか…。職員の意識統一の再確認が必要だと思いました。



①「菊間の地下探検」というビデオを見て、石油の必要性や基地の仕組み、環境保全や安全性について学びました。



③ヘルメット着用後いよいよ中へ。地下水でじんわり濡れている岩盤を触らせてもらいました。11月26日に起きた今治市震度4の地震時の状況を聞くと、地下のトンネル内は揺れを感じなかったとのこと。毎年、南海トラフ巨大地震を想定して総合防災訓練を実施。その他、今治市西消防署や亀岡保育所園児も参加して避難訓練を行うなど地域との連携を密にしている現状から私達が出来る事とは、地元における施設の役割を考え、周りの人々の防災意識の底上げにつなげたい…。そう感じる貴重な時間でした。

【編集後記】令和という新たな年がスタートいたしました。会員の皆様には、心新たに日々の保育に頑張っていたただけのことと思えます。総務広報部会では、皆様のご意見や研修で学ばれたことを「えひめの保育」で掲載させていただきます。今後皆様の色々な声をお届けできるように努めてまいりますので、よろしくお願いたします。(総務広報部会一同)

※令和元年度保育問題対応協力金 合計 958,600円

ご協力ありがとうございました。

今年度、皆様にご協力いただきました「保育問題対応協力金」は上記のとおりとなりました。本協力金は、全国保育協議会へ送金し、保育制度の充実強化を目指すために活用させていただきます。

※令和元年度保育三団体被災地支援募金 合計 1,213,167円

ご協力ありがとうございました。

今年度、皆様にご協力いただきました「保育三団体被災地支援募金」は上記のとおりとなりました。本支援募金は、被災地域の保育所並びに保育組織、及び被災地域における保育活動の支援のために活用させていただきます。